

共同礼拝

2023年3月5日(日) 午前10時30分

午後3時00分

司式 牧師 姜 匠米

前 奏

招 詞 詩 編 100編1, 2節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

詩 編 133編1～3節 (旧975)

マタイによる福音書 12章46～50節
(新23)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 16 (1, 2)

説 教 「神の家族」 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 532 (1, 2)

聖 餐 式

献 金

頌 栄 541

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

3月の祈り

主イエスが共におられることによって、与えられている恵みと導きを見出し、日々を大切に歩むことができるように。

戦火と天災によって困難と悲しみを負っている人々に、主のみ手が伸べられ、癒しと慰めが与えられるように。

受難節を覚え、主イエスの十字架の救いの信仰理解を深め、礼拝を大切に、聖書に親しみ、祈りの時を持ち、イースターの恵みに備えることのできるように。

今日の祈り

東日本大震災から12年を経、未だに癒されない痛みを負っている人々を覚えて。震災の記憶が風化することなく、経験が活かされるように。

新たな歩みに向かっていく若い人々の道が祝され守られるように。

危機にある世界を覚え主の御手を求めて祈り続けることができるように。

体調を崩している兄弟姉妹が力づけられるように。

「神の家族」 高橋和人

マタイによる福音書 12:46～50

主イエスには家族がいた。主イエスの成長の様子はわずかしか残されていない。普通の家庭での暮らしと成長を経験してこられた。しかし、主イエスの公生涯の始まりは家族に驚きをもたらした。主イエスには、母マリアとのちのエルサレム教会の指導者となるヤコブと弟三人、妹二人の家族がいたことが知られている。

主はその時まさに群衆に語っておられた。主イエ

スのメシアとしての姿だ。この主イエスに母と兄弟には話したいことがあった。それは家族としての話であろう。しかし、家族はかえって群衆とは距離を取り外に立っていた。

近くにいる人、主イエスとその家族を知る人物が主イエスに家族の存在を見つけ知らせる。主イエスの答えは驚くものであった。「母、兄弟とははだれか。」と。

主イエスと肉親の関係について、ヨハネは「兄弟たちも、イエスを信じていなかった」7:5と言いつつ、マルコは「身内の人たちはイエスのことを聞いて取り押さえに来た。『あの男は気が変になっている』と言われていたからである。」3:21と語る。家族の知っている主の姿と、群衆に語る主の姿は違っていた。

使徒は「家族の世話をしないものがいれば、その者は信仰を捨てたことになり」1テモテ5:8と家族を大切に。その一方で聖書は肉親の罪を語る。最初の兄弟は妬みによって弟を殺害した(創世記4)。血が人を縛ることがある。愛するゆえに自分思いを押し付ける。その一方で甘え、求め、愛ゆえに期待し、憎しむ。そして、肉親の視点からはイエスの真の姿がえなかった。

主は「天の父の御心を行う人」が家族であるという。それは、独り子をお与えになるほどにわれら愛される父である。天の父の御心を知ることには御子の救いをそれぞれが信じる。それは、家族を一人の人として尊重することになる。

パウロは「あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族」(エフェソ2:20)であるという。教会は神の前に一人一人が立つという家族である。無作法ではなく愛と尊重がなければならない。